



「山頂の花畑」

四季の部 銅賞 八王子市 真次 弘



塔婆の功德

別格本山高幡山金剛寺 貫主 杉田純一

還暦を越え、二度目の年男を迎えたのは昨年のことでした。これまで二度の大病を患い、歳を重ねるごとに体力が落ちてきたことを自覚していましたが、どうも新たな病が隠れていたようで、五月の中ごろになると体調が思わしくなくなり、あわてて病院に駆け込むと、手術が必要との診断を受けました。幸い手術は無事に成功し、その後、約四十日間の入院生活を送りました。ただ術後せん妄の症状（意識が濁り、錯覚や妄想が現れる）が現れ、通常ならば三〜四日で治まるとのことでしたが、私の場合はせん妄の状態が長く続き、集中治療室を出ることができず、ようやく一般病棟に移ることができたのは術後十日たってからのことでした。さて、みなさんは施餓鬼会や年回忌等の法要の際、ご先祖さまの供養のために塔婆を墓地に建てておられることと思います。それでは何故、供養のために塔婆を建てるのでしょうか。京都の東寺を賜った弘法大師空海（お大師さま）は、五重塔の建立にあたって、つぎのような文を遺されています。

徳の聚まる所は塔とうこれ最なり。塔をば功德聚くどくじゆと名づけ、功德聚は即ち毘盧遮那びるしやな万徳まんたくの集じゆ成する所なり。この故に塔を建つれば福德無尽なり。

（『遍照發揮性靈集』第九卷）

すなわち、お大師さまは、徳を積む善行の中で最も優れているのは仏塔を建立することであり、仏塔は功德聚とも称されている。仏塔は真言密教の根本仏である大日如来そのものである。それ故、仏塔（五重塔や塔婆）を建てたならば、尽きることの無い功德が得られるのである、とおっしゃっています。

わたしたちがお墓に建てる塔婆は、五重塔と比べると小さなものかもしれませんが、両者は同じ仏塔、そして大日如来のお姿であり、その功德は全く等しく、塔婆建立の功德は必ずご先祖さまへと振り向けられることでしょう。

最後になりましたが、今夏もまた、各地で水害や地震による被害が発生してしまいました。被災された方々におかれましては、一日でも早く元の生活に戻れるよう願っています。

お不動さまの心―(一一二二) 現代の世相から(85) 廣澤隆之

ある年配の女性からいろいろと話を伺う機会がありました。長年にわたり高齢のお母さんの介護に身を尽くし、家族の問題でも悩んでいるからでしょうか、心身ともに疲れた様子でした。このように心が安らかでない時には普通では思いもよらない気分になり、さらに心は乱れてしまいがちです。いつも笑顔を絶やさない彼女の疲れ切った表情に私の慰めの言葉もむなしく響きます。

そのような彼女から電話がありました。よほど辛かったので薬にもすがる思いだったのでしょう、占い師に相談をしたとのことです。そして狐が憑いていると告げられたとのこと。しかし占い師が言うように狐が憑いているという確証は私にはありませんでした。しかも私は狐憑きについてくわしい知識もありませんので助言することもできません。ただ彼女にとっては狐が憑いているという占い師の言葉を信じ、心がさらに動揺していることだけは確かでした。

ただ一つ、彼女の心に関わる手だてがありました。古い師が仏壇をお祓いして拜むことを勧めたとのこと、私に仏壇の前で拜んでほしいとの依頼がありました。私は体調がすぐれず、外出ができなかつたので代理の者が彼女の自宅に行き、仏壇の前での読経をしました。そして私は毎朝本堂で仏さまに拜むから安心してほしいと彼女に伝えました。

ところで狐憑きなどの悪霊を取り払う方法は儀式としてさまざまに伝えられています。苦しむ人を救い、その家族や集落の安寧を願う昔の人が懸命になつたからこそ、さまざまな儀式が求められました。現代ではそのような儀式に代わって精神医学にもとづく医療が最も有効とされているようです。しかし昔からの儀式で除霊をする人もいます。どちらにも共通するのは苦しみを取り除き心を安らげることにあります。ところが私に相談をもちかけた女性は、私に読経を依頼し、仏さまに頼ろうとしたのです。

毎朝の読経や真言密教に伝わる祈りを続けても、彼女の心が安らぐかどうか、私には自信がありませんでした。しかし私には除霊の儀式をする能力もなく、精神医学で心を安らげる知識ももちあわせていません。私はただ祈ることしかできませんでした。

一ヶ月ほどして、彼女から電話がありました。とても軽やかな声で「狐が抜けました」と言のです。なぜ狐が抜けたのが分かつたのかというと、近所の犬が異様な吠え方をし続けたから狐が抜けたと思つたようでした。彼女の話聞き、共に喜び合いました。

それから数週間後に墓参りに来た彼女と会いました。以前のようにとどろき清々しい表情で私にお礼を言うのですが、私は何もしてあげられなくて恥じ入るばかりでした。そして遠慮がちに毎朝祈つていたことを伝えました。すると彼女が思いもよらないことを話したのです。彼女は自分のためではなく、体調のすぐれない私の病状を案じて毎朝祈つていたというのです。私はこの言葉を聞き、息を呑みました。そして狐が抜けた原因はそこにあると確信しました。自分をさておき、他人のため

に祈るとき、自分へのこだわりを忘れていきます。自分を忘れ、無心に祈るとき、心に汚れはありません。汚れなく、心が浄化されれば気持ち清々しくなり、落ち着いた思いになります。

お釈迦さまはあらゆるものごととは心から生まれると説いています。心が生み出す怒りや欲望、そしてその根本にある自分への執著こそあらゆる悩みのもとになります。私たちはいつも「私」ばかり気にしています。



茶 枳尼天曼茶羅 江戸時代

で仏教が生きていることを目の当たりにして感動しました。自分のためでなく他人のために祈ることで祈りは純化し、心は清まります。

私たち僧侶は日頃の祈りの最後に「願わくはこの功德をもつて普く一切に及ぼし、我らと衆生と皆共に仏道を成ぜんことを」と唱えます。また「(祈りの功德が)更にはすべてにゆきわたり平等に利益がありますように」とも唱えます。

「私の大事な持ち物」「私の大事な親族」「私の身体」など、「私の〜」という思いで頭の中はいっぱいになっています。しかし「私の〜」を離れた祈りをするとき、私たちはこだわっていた「私」から解き放たれ、「私」を超えた偉大な生きる力と出会います。そしてその偉大な力で心が浄化されます。

この仏教の教えの真髄に彼女は祈りの中で到達したようです。私は彼女の清々しい表情と言葉

祈りに徹するとこだわりの自分を超えた偉大で崇高な仏さまに包まれた自分に気づくでしょう。それが生かされていることの事実でしょう。生かされていることが仏さまに救われていることでもあります。その救いの力を尽くしてお不動さまは私たちを見つめています。

廣澤隆之先生のプロフィール
● 大正大学名誉教授
● 浄福寺住職

ご奉納御礼

左記ご奉納頂き大変有難く厚く御礼申しあげます。
(敬称をすべて省略させていただきます)

**境内整備緑化資金
寄進者芳名**
(令和六年五月一日〜七月三十一日)

- 横浜市 田村 純子
- 横浜市 田村 小雪
- 彦根市 西澤 加奈子

幟旗奉納者芳名
(令和六年五月一日〜七月三十一日)

- 新宿区 古川 信一
- 世田谷区 松本 美子
- 杉並区 橋本 敦
- 立川市 須崎 昭子
- 立川市 大森 光明
- 立川市 大森 まゆみ
- 日野市 岡田 加代子
- 日野市 栢谷 文雄
- 日野市 大増家精肉店
- 日野市 外口 実
- 日野市 加藤 栄子
- 昭島市 五十嵐 麻実
- つくば市 児島 由美子

一、品名 **彼岸花球根**

奉納者
日野市 須崎 忠男



一、品名 **剣拵**

久保純一作
黒呂色塗
高時絵寺紋入
橋弁慶図目貫
奉納者
日野市 猪鼻 洋助
奈良県 河内 国平

秋季大祭記念法話

- 日時 九月二十八日(月) 十二時三十分から
- 会場 客殿二階(聴講無料)
- 講師 真言宗智山派教化部長 川口市 正源寺御住職



荒井 真道 先生
演題
「生きる力ー
仏さまに祈り、
仏さまと出会う」

第十五回 藤蔵・勝五郎 生まれ変わり記念日イベント

日野市郷土資料館では十月十日に迎える「藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日」に際し左記の通り講演会を開催しますのでお誘い合わせてご参加下さい。

- 日時 十月十二日(土) 午後一時三十分〜三時三十分
 - 会場 五重塔塔院大ホール(入場無料)
 - 発表者 調査団メンバー
 - 司会・進行 皆神龍太郎氏(作家)
 - 内容 シンポジウム「勝五郎生まれ変わり物語 探求調査団の活動と研究成果について」
- (問合せ) 日野市郷土資料館 ○四二―五九二―〇九八一

第十三回ブルー ライトアップ

今年も世界糖尿病デーにちなみ五重塔のブルーライトアップ及びチャリティーイベントを左記の通り開催します。

- ◆五重塔ブルーライトアップ 十一月九日(土)〜十六日(土) 午後五時〜十時
 - ◆チャリティーイベント 十一月九日(土) 午後四時〜
- 会場 五重塔塔院大ホール (入場無料)



(出演)
・りょうすけ(くちぶえ奏者)
・たしまみちお(ギター奏者)



あじさいまつり写真コンクール
あじさいの部 金賞「初夏の彩り」 文京区 小池 基夫

高幡不動尊
フォトニュース



日野市猪鼻様より剣ご奉納 8/10



自衛消防訓練 8/7



あじさいまつり写真コンクール審査 7/29



施餓鬼会ご法話 成田山新勝寺 小川照等先生 8/15



青葉まつり法要 6/15



成田山勸学院の皆様と 6/7



薄茶接待～専修大学茶道部ご奉仕 6/23



大施餓鬼法要 8/15



牧宥恵先生仏画教室 6/15



あじさいまつり俳句大会 選者の先生方 8/3



青葉まつり詠歌奉詠・高幡山遍照講の皆様 6/15



来年のために～あじさいの毬切作業 7/2

秋の行事案内

(毎月十五日にはお焚き上げが行われます)

◇九月

8日(日) フリーマーケット

15日(日) ござれ市(がらくた市)

21日(土) 月例写経会(午後一時半) 法話 山内僧侶

22日(土) 彼岸会法要(午前七時) 大日堂

28日(土) 千体地藏尊月例法要(午後二時) 法話 山内僧侶

28日(土) 秋季大祭大般若会 お花講総登壇日

記念法話 講師 真言宗智山派教化部長
正源寺 御住職 荒井 真道先生
演題 「生きる力」 仏さまに祈り、仏さまと出会う

◇十月

13日(日) フリーマーケット

21日(日) ござれ市(がらくた市)

21日(月) 多摩八十八ヶ所巡拝結願法要

記念法話 講師 智山青年連合会会長 多摩八十八ヶ所第七十七番札所 福傳寺 御住職 原 祥壽先生

演題 「お大師さまと食べる」

21日(月) 月例写経会(午後一時半) 法話 山内僧侶

26日(土) 千体地藏尊月例法要(午後二時) 法話 山内僧侶

28日(月) 第五十三回 高幡不動尊菊まつり (下段参照)

28日(月) 月例祭(ご縁日)

◇十一月

11月 七五三祈願

9日(土) 16日(土) 世界糖尿病デー

五重塔ブルーライトアップ

16日(土) フリーマーケット

17日(日) 高幡写仏会 講師 牧宥恵先生

18日(月) ござれ市(がらくた市)

21日(木) 30日(土) 高幡不動尊もみじまつり

22日(金) 月例写経会(午後一時半) 法話 山内僧侶

23日(土) 花塚供養 萬燈会・たかはたもみじ灯路

28日(木) 千体地藏尊月例法要(午後二時) 法話 山内僧侶

第五十三回高幡不動尊菊まつり

恒例の高幡不動尊菊まつりが左記の通り開催されます。皆様お誘い合せてご鑑賞下さい。

記

一、月 日 十月二十六日(土)～十一月十七日(日)

一、会 場 高幡不動尊境内

一、参 加 多摩菊花連盟参加八市の菊作り愛好家

一、出 品 厚物・管物・一文字・懸崖・福助・だるま・盆栽・切花等一、〇〇〇点余り

一、特別出展 参加八市の特設花壇及び特志者の大作り (千輪咲・三重塔) 等も出品。

一、審 査 十一月五日・十三日の両日に行われ、内閣総理大臣賞をはじめ各大臣賞・東京

都知事賞等が贈られます。

※期間中は毎日菊作りの相談及び菊苗の販売が行われます。展示された菊花のうち切花は十一月七日・十四日の両日朝から、福助は十一月十日午後一時から即売されます。

又、期間中のご縁日・日曜・祝日等は七五三詣とも重なり大変混み合いますので、なるべく電車・モノレール・バスをご利用下さい。

七五三・新生児祈願のご案内

お子様の健康をお祈りする七五三祈願は十月～十一月中毎日、新生児祈願は一年中ご修行しております。

◎ご祈願料 金三、〇〇〇円以上 (お札・供物料含む)

※堂内ではお子様を中央前に、ご家族の方はその後ろにお座り下さい。



昨年の内閣総理大臣賞

高幡不動尊もみじまつり

十一月十八日(月)～十一月三十日(土)

境内から裏山にかけては、樹齢二百年以上の古木三百株・約三十年の稚木一〇〇〇株が集中しています。特に五重塔・大師堂・鐘楼堂付近のもみじは見事でライトアップも予定されております。

もみじまつり期間中の主な行事・催しは左の通りです。

- 十一月十六日・十七日 高幡写仏会
- 十一月十七日 ござれ市
- 十一月二十一日 月例写経会
- 十一月二十二日・二十三日 萬燈会・たかはたもみじ灯路
- 十一月二十四日 千体地藏尊月例法要
- 十一月二十八日 ご縁日

萬燈会・たかはたもみじ灯路

当山では左記の通り二日間に亘って萬燈会を奉修し、皆様の七難即滅・七福即生並びにご先祖様の追福菩提をお祈りさせて頂いていただきますので、皆さまお誘い合せてご参加下さい。尚、両日とも午後六時から門前町一帯で、約二四〇〇個の置灯明が点灯され、「たかはたもみじ灯路」の幽玄な世界が現出されますのでお楽しみ下さい。

記

- 一、月 日 十一月二十二日(金)・二十三日(祝)
- 一、会 場 高幡不動尊五重塔
- 一、行 事 法 話・詠歌奉詠 午後四時
- 萬燈会(塔院) 午後五時
- 塔婆供養(五重塔前) 午後五時三十分
- 奉納コンサート 午後六時
- 一、御燈料 金一、〇〇〇円也(一人につき)
- 一、経木塔婆 金一、〇〇〇円也(一霊につき)
- 一、浮燈明 金 八〇〇円也(五重塔の池に浮べる燈明です)

多摩八十八ヶ所巡拝結願記念法話

- ・日時 十月二十一日(月) 午前十時三十分
- ・会 場 不動堂(聴講無料)
- ・講師 智山青年連合会会長 多摩八十八ヶ所第七十七番札所 福傳寺御住職



原 祥 壽 先生
・演 題 「お大師さまと食べる」

高幡写仏会のお知らせ

自分の手で仏様のお姿を写経のように写して、その後、御本尊不動明王に奉納する写仏会です。当山では年二回(あじさいまつり・もみじまつりの会期中)写仏布教の第一人者、画僧牧宥恵師を招いて開催しています。写仏前の御法話も人気があります。是非この機会に御参加いただき、お不動様との法縁と写仏を自身の浄行とされ御本尊不動明王のご加護を授け下さい。

記

- 日時 十一月十六日(土)・十七日(日)
- 会 場 午後一時～午後四時(受付 正午より) 宝輪閣地階ホール(両日共、牧宥恵師の作品を展示します)
- 内 容 午後一時 法話
- 午後二時 写仏
- 午後四時 写仏奉納大護摩修行
- 会 費 式千円(材料費含む)
- ◆お申込・高幡不動尊事務局まで
- 電話 〇四二五九一〇〇三二

大提灯

ご奉納のお願い

当山では萬燈会・正月・大祭・節分等の大行事の折、各所に大提灯をお飾り致しますのでご協賛の程お願い申し上げます。

- 尚、募集要項は左の通り
- 一、品 名 萬燈会及び大祭 用大提灯(ご奉納者芳名入り) 五十基
- 一、志納金 金五〇、〇〇〇円
- 一、申 込 当山事務局又は 宝輪閣受付

(ご連絡下されば申込書をお届け致します)



ご奉納いただいた大提灯

山内消息

御詠歌講習会(61)

境内のアジサイが満開の中、恒例の遍照講東京多摩教区連合会の講習会が開催されました。講師として密厳流詠監・指導師範流匠の直林一敏先生をお招きし、「興教大師讃仰和讃」「両祖大師誕生和讃」をご指導頂きました。講習会と並行して検定会も行われ、指導師範流匠の林智宏先生立会いの下、十五名が受験し見事全員が合格しました。

(小澤記)

遍照講御詠歌山形大会(62)

第二十四回密厳流詠歌山形奉詠大会が開催され、遍照講高幡山支部、西蓮寺支部の十三名の講師さん達が参加されました。コロナ禍になってから六年ぶりの東北地方での開催となり、開会式での主催者の歓迎の言葉は、参加者に感動を与える挨拶となりました。山形には前日入りし、湯殿山神社、チェリーランドなどを巡り、将棋で有名な天童で宿

を取り、山形の魅力を感じる二日間の旅路でした。

あじさい穗切り

(小澤記)

七月二日、毎年恒例のあじさい穗切りを行いました。いつもこの行事をすると「いよいよ本格的な夏がやってくるのだな」と思いつつ、汗を拭きながら切りました。

今年は、例年に比べ雨の量が少ない為か、あじさいの咲き方が全体的に小さく感じました。それでも多くの御信者が来山されカメラを片手にシャッターを切り、境内で楽しむ姿がありました。

(伊大知記)



直林 一敏先生

寺子屋 (7/28)

お不動様のご縁日に寺子屋が開催されました。今回は若草子供会の子供たちと保護者の方々、総勢十四名の参加となりました。開会式の後、まず阿字観という瞑想法を実践して心を落ち着かせ、それから腕輪念珠作りに取り掛かりました。二回目の子は慣れて

石原なつな

色々見れて楽しかったです。特に鳴り龍の所に行って、手をたたいたら不思議な音がしました。とっても不思議でした。五重塔のてっぺんまで昇れて良かったです。私の学校が見えたり、保育園も見えました。ゲームのしんけいすいじやくで負けちゃったけど色々な写真があつておもしろかったです。メーロみたいなやつもドキドキして楽しかったです。

百瀬 文香

一番楽しかったのは、ボールを三人で動かすゲームが楽しかったです。龍のところが音がひびいてすごかったです。五重塔こわくないので、また昇りたいです。

とみかわあさひ

鳴り龍が楽しかったです。音が面白かったです。音を鳴らすのが楽しかったです。

大村 陽子

毎年子供達が楽しめるように工夫していただき、大変有り難く思っております。五重塔に昇ることが出来たり、貴重な体験をさせていただき、

参加した皆様の感想をご紹介致します。

(佐竹智記)

初めて五重塔を昇らせていただきました。大変貴重な経験を有難うございます。子供達も普段見て回ることに無い場所を沢山見られて、良い思い出になったと思います。皆楽しんでいました。

吉川 淳

楽しませるようにイベントを考えるのは、とても大変で難しかったと思いますが、子供の気持ちをよめる工夫がいっぱいで良かったです。



三人集まれば文殊の智恵ゲーム (寺子屋)

第四十回あじさいまつり

今年の薄茶接待は裏千家・表千家の当山茶道教室に加え中央大学・早稲田大学・明治大学・専修大学の各茶道部にご奉仕いただき、三三九〇名の皆様に薄茶を楽しんでいただきました。

- ・ 拳友会・御殿場西高等学校・第三二普通科連隊・滝ヶ原拳法部・中央大学・日本大学生産工学部・練馬拳法部・日本大学
- 三段以上の部
 - ・ 優勝 西澤 悠
 - ・ 準優勝 大久保裕斗
 - ・ 三位 石井 由助
 - ・ 四位 湯川 正宏

少年柔剣道奉納大会 6/2

日野警察署内の道場で稽古に励んでいる少年少女が、剣道の奉納演武と柔道の奉納試合を繰り上げました。各部受賞者は次の通りです。

- 柔道
 - ・ 優勝 鈴木 帆南
 - ・ 準優勝 緑川 らん
- 敢闘賞 橋口翔平・若佐光久
久根木一粹・渡辺宏紀
- 二段の部
 - ・ 優勝 末兼 秀吾
 - ・ 準優勝 金刺 一星
 - ・ 三位 松平 寛文
 - ・ 四位 山本 和希

日本拳法奉納大会 6/9

日本拳法奉納大会は五重塔塔院大ホールを会場に十三団体七十四名の参加で終日熱戦が繰り上げられました。

本年の参加団体と各部受賞者は次の通りです。



「アジサイの横で」あじさいの部 銅賞
西東京市 桜井 喜昭

- 敢闘賞 鎌田琴末
- 級の部
 - ・ 優勝 ソーナイン
 - ・ 準優勝 渡邊 航生
 - ・ 三位 天神 輝弘
 - ・ 四位 渋沢 賢

空手奉納大会 6/23

大会当日は型や演武等が披露されました。各賞受賞者は次の通りです。

- ・ 優勝 八木 武寛
- ・ ライトコンタクト空手
 - ・ 敢闘賞 志村 凌
 - ・ 努力賞 杉山 響亮

○初段の部

- ・ 優勝 古橋 魁人
 - ・ 準優勝 大石 将大
 - ・ 三位 栗村 仁基
 - ・ 四位 竹中 聖七
- 敢闘賞 龍澤慶樹・角谷啓太
儀賢太郎・金井俊樹

あじさいまつり全国俳句大会

今大会は一五〇二句の応募があり、八名の先生方に各七句選を依頼し合計点で上位三十名の入選が決まりました。選者は次の先生方です。

- (敬称肩書略・五十音順)
- 大竹多可志・才野 洋
 - 笹木 弘・鳥居真里子
 - 藁目 良雨・福神 規子
 - 星野 高士・矢島 艶子
 - の諸先生
 - 第一位
 - 炎天を
 - 棒の如くに
 - 僧佇てり
 - 八王子市 櫻木 邦子
 - 第二位
 - 生かされて
 - 生きて卒寿や
 - 蓮の花
 - 春日部市 橋本 明子
 - 第三位
 - 雨といふ
 - 絵筆あぢさゐ
 - 濃く淡く
 - 国立市 小西 悦子



「姉弟」
あじさいの部 銀賞
八王子市 渡辺 邦昭

- ④ 古郡 孝之
- ⑤ 大久保 昇
- ⑥ 完戸 澄子
- ⑦ 松本由美子
- ⑧ 富山 光義
- ⑨ 金子 秀夫
- ⑩ 竹中 義信
- ⑪ 佐々木リサ
- ⑫ 石田 雄進
- ⑬ 大沢 綾子
- ⑭ 田中 京子
- ⑮ 田川えつ子
- ⑯ 村木 節子
- ⑰ 内田 廣二
- ⑱ 佐藤 利明
- ⑲ 西尾 京子
- ⑳ 譲尾三枝子
- ㉑ 吉野 新一
- ㉒ 吉田 鈴子
- ㉓ 関戸 信治
- ㉔ 安武 豊
- ㉕ 宮岡 定子
- ㉖ 根岸 操
- ㉗ 並河 敬子
- ㉘ 山岸 嘉春
- ㉙ 島村 實
- ㉚ 北村勢津子

あじさいまつり短歌大会

今大会は二四四首の応募があり、四名の先生方に各五十首選を依頼し、合計点で上位三十名の入選が決まりました。選者は次の先生方です。

(敬称肩書略五十音順)

- 大河原惇行・狩野 一男
- 長澤 ちづ・森本 平
- の諸先生

第一位

- 亡き母も
- 歩きし道や ありなしの
- 風に揺れ咲く

紫陽花の花

- 府中市 栗原 幸子

第二位

- 参道を
- 所狭しと ござれ市
- 負けてもらった

店はこの辺

- 三鷹市 田山神無月



「雨上がりの境内」
あじさいの部
銀賞
小金井市 鈴木 忠良

第三位

読経に
まじりて護摩の 火は勢ひ
不動明王の
胸まであがる

武蔵野市 藤井 徳子

- ④黄金井春男 ⑤中安百合子
- ⑥高橋 勇 ⑦土屋美代子
- ⑧佐藤 昌喜 ⑨大戸紀久代
- ⑩渡利 杏 ⑪鷺田ひさみ
- ⑫芝田 大地 ⑬宮田 美子
- ⑭中野 寛人 ⑮西川 直子
- ⑯石川るみ子 ⑰加藤 久子
- ⑱島崎 栄子 ⑲田山 光起
- ⑳松永 昇三 ㉑手塚 兼夫
- ㉒藤沼加代子 ㉓竹内佐喜子
- ㉔立山 宏子 ㉕伊藤恭一郎
- ㉖南 孝子 ㉗矢澤 靖江
- ㉘中道 操 ㉙橘 光江
- ㉚千明 武紀

山内八十八ヶ所めぐり

今回は六四二名に御解答いただき、全問正解は五三七名でした。

クイズの正解

- ①不動堂でお清めに授かるのは？
- ⑩京王線高幡不動駅の前の駅名は？
- ⑲虚空蔵菩薩さまは何参り？
- ⑳新一万円札の肖像は？
- ㉑大日堂天井の龍は？
- ㉒多摩モノレールの新キャラクターは？
- ㉓シーボルトが紹介した紫陽花の名は？
- ㉔佐藤彦五郎資料館で初公開したのは？
- ㉕京王線のレール幅は？
- ㉖関守石を置く理由は？

「塗香」

「高幡駅」

「十三」

「鳴り龍」

「渡沢栄一」

「十三」

「鳴り龍」

「渡沢栄一」

「鳴り龍」

「渡沢栄一」

「鳴り龍」

「渡沢栄一」

「鳴り龍」

「渡沢栄一」

「鳴り龍」

「渡沢栄一」

「鳴り龍」

「渡沢栄一」

「鳴り龍」

「渡沢栄一」

あじさいまつり写真コンクール

今回は総数一四〇三点(あじさいの部八五〇点、四季の部五五三点)の作品を応募いただき、七月二十九日に審査会が行われ、合計一〇八点が入賞しました。入賞作品は九月三十日まで五重塔千体堂に、十月三日〜八日まで京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターA B館五階連絡ブリッジギャラリーに展示します。

上位入賞者

〈あじさいの部〉

- 金賞 文京区 小池 基夫 (本号 四頁掲載)
- 銀賞 小金井市 鈴木 忠良 (本号 十頁掲載)
- 〃 八王子市 渡辺 邦昭 (本号 九頁掲載)
- 〃 八王子市 西宮 浩司 (七年六月号掲載)
- 銅賞 新宿区 富永 賢 (本号 十一頁掲載)
- 〃 西東京市 桜井 喜昭 (本号 九頁掲載)
- 〃 日野市 橋本 昌利 (本号 十三頁掲載)
- 〃 日野市 羽賀 道行 (本号 十一頁掲載)
- 〃 三鷹市 北野 修 (本号 十一頁掲載)

〈四季の部〉

- 金賞 八王子市 山本 鈍海 (本号 十一頁掲載)
- 銀賞 日野市 設楽 誠一 (七年三月号掲載)
- 〃 昭島市 松島 国五郎 (六年十二月号掲載)
- 〃 海老名市 清水 進 (七年三月号掲載)
- 銅賞 日野市 當麻 勝正 (本号 十一頁掲載)
- 〃 日野市 野村 明雄 (本号 十一頁掲載)
- 〃 八王子市 真次 弘 (本号 一頁掲載)
- 〃 八王子市 川口 みつじ (本号 十一頁掲載)
- 〃 江東区 小池 宏和 (六年十二月号掲載)



「国宝まつり」
四季の部 金賞 八王子市 山本 鈍海



「不動尊点描」
四季の部 銅賞 八王子市 川口 みつじ



「初夏の彩り」
あじさいの部 銅賞 新宿区 富永 賢



「紅葉と地藏さん」
四季の部 銅賞 日野市 當間 勝正



「オー！ビューティフル」
あじさいの部 銅賞 日野市 羽賀 道行



「賑わう初詣」
四季の部 銅賞 日野市 野村 明雄



「あじさいを眺める」
あじさいの部 銅賞 三鷹市 北野 修

諸行事に参加して

五月大祭

記念法話(5/28)

「天気予報は健康予報
〜天気予報の上手な
使い方教えます〜」

気象防災キャスター

天達 武史 先生

府中市 奥井 保子

生活に密着した内容で終始興味深く拝聴することが出来ました。講師も毎日身近にテレビで拝見しているので、親近感がありました。

西東京市 野島 和子

「天気予報は健康予報」なるほどと思いました。日々の生活で体調管理は天気によるものだと思いました。高齢になってきて、これから先の人生を楽しく過ごすには自然と共に行動することと思えました。大変意義のある講演で、空を見上げる楽しみが増えました。

日野市 野地 礼子
太陽の高さで虹が見える



天達 武史先生

「うお話が良かったです。寒暖差が大きいと発表される注意報は、夫婦喧嘩注意報とはなるほどですね。身体がついていけないと色々症状が出ますね。」

清瀬市 沖山 順子

気象予報士の方は沢山いらっしゃるにわかりやすく伝えてくださり、笑顔にとっても元気づけられています。異常気象、温暖化など難しいことが多く、甚大な被害の出る今日の予報は大変かと思いますが頑張ってください。

日野市 田中 晶

天気予報は毎日聞かない日はなく、晴れると嬉しく、雨だと気持も沈んでしまう。今日のテーマは健康予報、まさしく病は気からとも言われるが、天気は健康にも関係しているとわかりました。天達さんの話は身近な例えやクイズをまじえて楽しい時間を過ごすことができました。最後に防災の話も大変参考になりました。

少年柔剣道

奉納大会(6/2)

鈴木 帆南

あじさいまつりに出てみて楽しかったです。理由は三人連続で勝てたからです。六年生二人と中学生に一本で勝って、とてもうれしかったです。柔道の「楽しさ」を感じられました。

緑川 らん

私は準優勝できて、とてもうれしかったです。練習でがんばった事は、大外がりです。大外がりを覚えると体落としがやりやすいからです。次の

試合で勝てるように短い練習でも一生けんめいがんばります。

日本拳法

奉納大会(6/9)

赤平 知優

雰囲気の良い場所で、日本拳法という種目の良さがとても引立っていました。トレーナーとしての参加でしたが、各選手の熱量を間近に感じられ、とても盛りあがって観戦することができました。

尼崎市 松本 鼓大

日本拳法という競技を間近で見ることが初めてでしたが、迫力が凄まじかったです。

河北町 大場 鉄平

初めて大会を観戦しましたが、熱気あふれる試合の数々



少年柔剣道奉納大会



日本拳法奉納大会

で、とても見応えのある大会でした。とても綺麗なあじさいも鑑賞できて良かったです。

御殿場市 長崎 夏子

御殿場から初めて高幡不動尊にきました。毎回孫の拳法の試合を家で応援していますが、今回は連れて来てもらいました。素敵な場所での試合が出来、喜んでおります。有難うございました。

青葉まつり

法要(6/15)

狛江市 増田 誠

去年のお大師さま一二五〇回目のお誕生日から参加させていただいております。一年の感謝の気持ちをお大師さまにお伝えして、また一年頑張

る力にかけて毎日を通してま
いります。

立川市 高橋 奈穂

数年前に青葉まつりを知っ
てからコロナを除き、毎年参
加させていただいております。
今年も参加できて嬉しいです。
普段の生活で染みついた心の
汚れを浄化できる気がして大
好きです。

国立市 今村 砂織

去年知らないで青葉まつり
に来させていただいて感動し
ました。今年は高野山にもお
参りさせていただき、有難く
思いました。空海様、お誕生
日おめでとございます。

日野市 中見 理嘉

初めての参加でしたが、皆
様と一緒に両大師様ご生誕の
お祝いができて良かったです。



空手奉納大会

有難うございました。

青葉まつり

記念法話(6/15)

「童話から学ぶ人生の教え」

川崎大師法務部法務課

波部 純哉 先生

葛飾区 木村 舞

心に響く教えを童話から学
べるといってお話を聞かせてい
ただき、これからの生き方につ
いて改めて前向きに考える
時間となりました。とても面
白なお話でしたので、お時間
があれば、もっとお聞きした
かったです。

世田谷区 浅野 貴志

視点を変えることで、生き
ることの風景が変わってくる
ことを平易なお話で教えてい
ただき新鮮な驚きと喜びを感
じました。

町田市 高山真由美

前年に続き二回目の参加で
す。法話も楽しくユーモラス
で心地良いお話でした。そし
て幸福感を見直す機会になり
ました。自分も周りも大切に
全ての事に感謝です。あじさ
いも美しく、佳き一日となり
ました。



波部 純哉先生

稲城市 澤村 陽佳

今年もお大師様のお誕生祝
いに来られて良かったです。
「発心すれば菩提に到れる」
というお大師様の難しそうな
教えもシンデレラなどの童話
に描かれているように「私は
こうなりたい！これがしたい
！」という気持ちを持てば結
果も伴ってくる。「私はムリ」
と思ったらそれまで、という
ことだと大変わかりやすい法
話を頂けて励みになりました。

空手奉納大会(6/23)

多摩市 高橋 愛子

皆さんの日頃の成果が見ら
れて良かったです。

日野市 原田 ●

空手の奥深さを感じました。

またオリンピックの種目にな
るといいなと思います。

日野市 二瓶知恵子

二回目の参加でしたが、と
ても有意義で清々しい気持ち
になりました。

山内八十八ヶ所 クイズめぐり

日野市 保倉 俊一

健康・運動のために時折八
十八ヶ所巡りをしている七十
六才です。二十番あたりから
急峻な所があるものの、山の
上部まで来ると生い茂る緑に
包まれ、静寂感・清涼感を味
わうことができ、リフレッシュ
されます。

調布市 伊東 綾

山紫陽花の花を楽しみなが
ら、小鳥の声、遠くの景色、
紅葉の若葉など、山の自然を
沢山浴びて素敵な時間を過せ
ました。

日野市 田中 恵子

山紫陽花を沢山見る事が出
来て良かったです。案内板も
沢山設置してあり、迷う事な
く八十八ヶ所めぐりを楽しめ
ました。近くに住んでいるの

に来る機会がありませんでし
たが、これから毎日来たいで
す。

狭山市 鴫澤 京子

しばし都会の喧騒を忘れ、
山紫陽花の美しさに心が洗わ
れました。八十八のお大師様
一体一体のお顔を拝顔し、怒
りを忘れ邪気を払い、穏やか
な気持ちで日々過したいと思
いました。また秋の紅葉の頃
に伺います。

立川市 露木 綾花

夫と息子の家族三人で初め
て参りました。お不動様にとて
も感動しました。参拝後にニコ
ニコが止まらなくて不思議で
した。または是非お参りに来たい
と思います。



「境内を彩る」

あじさいの部 銅賞 日野市 橋本 昌利

奥殿だより

第六回

仏教ゆかりの花と木々 その一
 仏教と関係の深い花や木々には、蓮や菩提樹など多数あります。奥殿の展示の中でも、蓮や甘茶（紫陽花）について紹介しております。

本号がお手元に届く頃には開花の時期は過ぎてしまいましたが、今回は、蓮を取上げましょう。

今年も7月から8月にかけて、弁天池では、蓮が華麗な花を咲かせました。



今年咲いた弁天池の蓮の花

それに合わせて、奥殿の展示でも、蓮を描いた坂本雅城「蓮図」、清狂子悟海「蓮図」、

戸高要（日野本町）「蓮葉秋色」を展示しました。



左から、坂本雅城、清狂子悟海、戸高要の作品

蓮の絵と共に床置きで、散華（「華葩（けは）」とも言う。）を、寛永十四年（一六七七年）制作の華籠にのせて展示しました。華籠には毛彫の蓮華が施されており、散華は蓮の花弁をかたどった物で、法要の際などにまかれる物です。

展示した散華は、文化十二年（一八一五年）四月十七日に日光東照宮で行われた東照権現二百回御神忌（徳川家康二百回忌）で使用された物であります。その法要には

日本全国から多くの僧侶が参集しており、当山の僧侶も参加したのかもしれない。



江戸時代の散華と華籠

では、なぜ蓮は仏教と関係が深くなったのでしょうか。

蓮は泥中にある蓮の根（レノンコン）の節から芽を出し泥水の中から花柄をのばして出てきたのに、清々しい香りのする華麗な美しい花を咲かせます。様々な民族、宗教で象徴的な意味合いを持つ花として愛されています。

蓮とよく似たものに睡蓮があります。両者は現代の植物分類学上では別種のもですが、古代に於いてはエジプトでもインドでも厳格に区別はされていなかったようです。

仏典でも同様で、蓮華＝蓮＋睡蓮です。現代でも英語では両者ともにロータス (lotus) といひ、ヨーロッパでは両者同じ名前と呼ばれています。

インドの神話では、光明神ビシュヌの臍からはえた光り輝く蓮華の中にブラフマー（梵天）が誕生、蓮華に座って万物を創造したとされます。蓮の花は光明の象徴なのです。

このヒンドゥー教の神話は、仏教にも影響を与えたと考えられます。蓮華化生がその一つでしょう。飛天が天上に咲く蓮華の花を空中に撒き、その蓮華から仏や菩薩、天人などが誕生するのです。

汚泥の中から生じ、そしてその汚水に決して染まることなく、清らかな花を咲かせる蓮は、仏教では、欲に満ち汚れた私たちの世界に現れる尊き仏や菩薩たち、そして正しい仏の教えに、しばしば譬られています。そしてそれは逆に、汚れた泥がなければ蓮の花は決して咲くことができない

いように、汚れきった世界だからこそ、尊き仏や菩薩は現れるというのであります。

仏教寺院や仏像、使用する道具などには、蓮の花の紋様が多く用いられています。多くの仏像が蓮華座という台座にのっており、頭光（頭部の光背）の中央にも蓮華紋がよく見られます。

また、真言宗では、赤い蓮の八葉の花弁が胎蔵曼荼羅の中央（中台八葉院）に描かれています。その花卉のそれぞれには仏が配置され、真ん中の蓮の台には、大日如来がお座りになっています。この曼荼羅の赤い蓮の花は、私たち衆生の心臓（こころ）を表しており、そこに仏たちが描かれていたということは、煩惱にまみれた私たちの心にも仏が宿っていることを意味し、その花卉が開いたさまは、仏を育みこの世界に生み出すのは、私たち衆生に他ならないことが示されているのです。

（藤井和夫記）

高幡いきもの曼荼羅 ②8

子供の頃、夏休みになると虫捕りにいそしんだ方も多いかと思いますが。いろいろな虫たちが現れるのがこの季節で、高幡不動尊の境内もセミの鳴き声に包まれます。昆虫の繁殖数は他の生き物に比べても桁違いに多く、子供たちが少々捕獲したくらいでは数が減ることはありません。しかし急激な環境の変化には弱いので、かつて田んぼなどで普通に見られたタガメやゲンゴロウは絶滅が危惧されています。と、この辺りでは、書物やネットなどの情報で伺い知れるところですよ。

では実際に昆虫と「触れ合う」とどうなるのでしょうか。チョウなどは鱗粉が手に付いてしまうし、力のあるカブトムシやカマキリは持ち方を誤ると痛い目に合います。ハチに至っては生命の危険すら孕んでいます。しかも往々にして昆虫は私達の予測がつかない動きをする厄介な存在でもあります。ただ人の生活に身近なだけに、昆虫に接することで私達の成長に刺激を与え、生死の概念や危機管理が知らず知らずのうちに身についてくるのだと思います。



カブトムシの交尾

幸いにして高幡不動尊の境内は、人と自然が程よく調和した里山の環境が残されています。カブトムシやクワガタは勿論、いろんな昆虫の生きた姿が見られます。たとえ夏休みが終わったとしても虫たちに終わりはありません。



羽化したばかりのアブラゼミ



オニヤンマの脱皮

なにげなくつかっている仏教のことは—どっこいしょ

「ごーんぎさんげ(惭愧懺悔)ろっこんしょうじょう(六根清浄)」と唱えながら、法螺貝や錫杖を手にした修験者が山を登って行きます。この「六根清浄」の掛け声が、

「惭愧懺悔」とは犯した罪を恥じて悔い改めること、

「ごーんぎさんげ(惭愧懺悔)ろっこんしょうじょう(六根清浄)」と唱えながら、法螺貝や錫杖を手にした修験者が山を登って行きます。この「六根清浄」の掛け声が、

「六根清浄」とは懺悔によつて、眼根(視覚)・耳根(聴覚)・鼻根(嗅覚)・舌根(味觉)・身根(触覚)・意根(心)の六つの根、すなわち身心が清浄となり、神聖な山へと入って行くことができるのです。

「ごーんぎさんげ(惭愧懺悔)ろっこんしょうじょう(六根清浄)」と唱えながら、法螺貝や錫杖を手にした修験者が山を登って行きます。この「六根清浄」の掛け声が、

「六根清浄」とは懺悔によつて、眼根(視覚)・耳根(聴覚)・鼻根(嗅覚)・舌根(味觉)・身根(触覚)・意根(心)の六つの根、すなわち身心が清浄となり、神聖な山へと入って行くことができるのです。

お不動さま教えて?

ご質問 お不動さまのお護摩の法要では、どのようなお経が唱えられているのか、また、その意味内容はどうなのかなどのでしよつか。どうかお不動さま教えてください。

お答え はい、お答えします。前号では「理趣経」の《百字の偈》についてお話をしました。つきに唱えられるのは「観音経の偈」です。

「観音経」は『妙法蓮華経』の第五章「観世音菩薩普門品」を取り出し、単独のお経としたものです。この「観世音菩薩普門品」という名称は、「世の中のあらゆる苦悩の声を観てとつて済うと誓われた菩薩、すなわち普く方向に顔を向けた観世音菩薩がお姿を現し済う教え」というほどの意味です。



如意輪観音

「観音経」は前半の散文(長行)と後半の韻文(偈・詩のこと)からなっており、お不動さままでは経頭(音頭をとる役僧が「大乘妙典普門品第二十五偈」という発声により、太鼓のリズムに合わせて一斉に「観音経」の偈の部分

お唱えされます。そこで偈の内容を簡単に紹介することいたします。

まず「尽きることのない意志を持つ者」という名の菩薩(無尽意菩薩)が大衆の中から立ち上がり、ブツダに対し「観世音菩薩とはどのようなお方なのでしよつか」という問いを発し、ブツダは「観世音菩薩はこれまで無限に等しい時間、数え切れない多くの如来にお仕えし、(すべての衆生を苦しみから済う)という海のように広く深い誓いを実践してきた菩薩であることとを知るべきある。それ故、観世音菩薩は自身に具わつ

ている自由自在な神力をもって、苦しむ衆生の声を観てとり、そしてあらゆる場所に赴き現れ衆生を済う菩薩なのである」と答え、さらにつづけて「そこで衆生は、観世音菩薩の誓いに応えるべく、観世音菩薩の名を聴き、その姿を見、こころに念じたならば、必ずや、その苦しみを取り除いてくれるであらう」とお説きになったのです。

(次号につづく)

大覚寺門跡推薦教室
いけばな 嵯峨御流
[第4回]

景勝の地として知られる京都嵯峨。その中でも特に水の景観が美しい三名所をいけばわすのが「三勝の景」です。



「庭湖の景」 テキスト「ときめきの花」より

一二〇〇年前に中国の洞庭湖を模して作られた、大覚寺大沢池の秋菊薫り立つ池島の景色をいけばわすした「庭湖の景」。



「嵐峡の景」 テキスト「ときめきの花」より

桜の名所として知られる嵐山。保津川の清流と対岸に咲き誇る桜の景色をいけばわすしたのは「嵐峡の景」です。「高雄の景」は京都市の北西、高雄山麓の美しい秋の紅葉と、その足元を流れる清滝川をいけばわすしています。
(講師 納富貴甫)



「高雄の景」 テキスト「ときめきの花」より

御詠歌始めませんか

『密厳流御詠歌』講員募集のご案内

御詠歌とは和歌調の詞に節を付け鈴・鉦を使ってお唱えする仏教歌で、彼岸会・萬燈会などの法要でお唱えします。高幡山では次のとおり御詠歌の新講員を募集します。大勢様ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

- 一、名称 遍照講高幡山支部
- 一、参加資格 どなたでもご参加いただけます
- 一、指導 密厳流遍照講師範
- 一、会費 一ヶ月 三、〇〇〇円
(但し、鈴・鉦などの道具は別費)
- 一、稽古日時 月二〜三回 午前十時〜十二時

問い合わせ先 高幡不動尊内「遍照講高幡山支部」
電話 〇四二一五九一〇〇三二

極楽の

鐘のひびきに

夢さめて

五色の雲に

いるぞとうとき

「追弔の御詠歌」

御◆案内

交通安全祈願

午前九時〜午後五時
午後四時半までにお申込下さい。

○ご祈願料 金三、〇〇〇円也

御護摩修行

○平日 八時・十時・
十一時半・一時・三時
○土曜・日曜・祝日
八時・十時・十一時半・
一時・二時半・四時

○但し一日、十五日の午前中は
五時・十時・十一時半

○ご縁日(二十八日)
五時・九時・十時・十一時・
十二時・一時・二時半・四時

○御護摩料 金三、〇〇〇円也
金五、〇〇〇円也
金一〇、〇〇〇円也

(大護摩) 金三〇、〇〇〇円以上
ご縁日 毎月二十八日
境内に市が立ち参道は歩行者天国になります。

フリーマーケット(リサイクル市)
毎月第二日曜日(雨天中止)
ござれ市(がらくた市)

毎月第三日曜日(雨天決行)
お焚き上げ

毎月十五日午前九時
月例写経会

毎月二十一日午後一時半
千体地藏尊月例法要

毎月二十四日午後二時
奥殿拝観(月曜休館)

午前九時〜午後四時
拝観料 三〇〇円

大日堂 鳴り龍・襖絵拝観

午前九時〜午後四時

参拝料 二〇〇円

(月曜休館)

尚法要中は拝観一時休止になりますのでご諒承下さい。

編集室だより

今年の夏は、パリオリンピックで日本選手が続々と活躍し、テレビに釘付けとなりました。パリとの時差による寝不足と、年々厳しさを増す猛暑で体調を崩された方も少なくはなかったことでしょう。今号はあじさいまつりの諸

報告と秋の行事案内を中心にお届けします。十一月には期間限定の御朱印を準備しております。どうぞお楽しみになさってください。

発行所

〒191-0031 東京都日野市高幡733

別格本山
高幡山金剛寺

電話 (042) 591-0032(代)
FAX (042) 593-3038

発行人 黒川高徳
編集人

年4回発行・再生紙使用